

# 企業ニュース アズビル

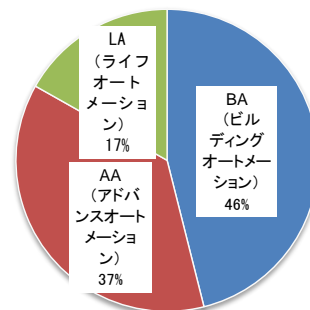
(東証1部 : 6845) <https://www.azbil.com/jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 計測・制御機器メーカー

◇18.3期売上高構成比

1906年山武商会設立、欧米工作機械類の輸入・販売を行う。1942年、山武工業に商号変更した。1949年、企業再建整備法により第二会社として山武計器を設立した。1953年、米国ハネウエル社と資本提携（出資比率50%）した。1956年に山武ハネウエル計器、1966年に山武ハネウエルへ商号変更した。1990年、ハネウエル社の出資比率を24.15%に引き下げ、1998年に山武へ商号変更、2002年にはハネウエル社との資本関係を解消した。2005年、金門製作所をグループ化（現LAのガス・水道メーター分野）。2012年に現社名に変更。2013年、スペインのTelstar社をグループ化（現LAのライフサイエンスエンジニアリング部門）。建物のオートメーションシステム（BA）や製造現場における計測・制御機器・アプリケーションの開発（AA）などが主要事業。LAでは上記2分野の他、住宅用全館空調システム分野にも展開している。



(出所) アズビル資料よりCAM作成

## 既設ビルの改修案件増加でBA事業の収益改善へ

19.3期・第3四半期累計（4-12月）の連結業績は売上高が1,854億円、前年同期比1%増、営業利益が153億円、同10%増。売上高はBAの減収をAAとLAの増収で補った。営業利益ではBAにおいて上期に発生した引当金など一時的な費用発生はあったが、AA、LAの増収効果に加え、事業構造改革や収益力強化施策などの効果もあり2桁増益を確保した。BAの減収は昨年度が高水準であった反動減によるものと推察、採算性に配慮した受注獲得に注力する中、良好な事業環境もあり、受注高は1,010億円、同3%増と伸長している。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が2,670億円、前期比3%増、営業利益が260億円、同8%増。AAにおいてFA市場の減速感など懸念要因は残るが、現状の事業環境や受注実績などを勘案すれば、据え置かれた通期計画の未達リスクは低かろう。BAでは、一定のビル新築案件が継続する中、今後は既設ビルの改修案件の増加も期待でき、さらなる利益伸長が期待できよう。LAでの収益改善も進捗している模様。

## [株価動向・投資判断]

今後90年代以降に大量に建築・供給されたオフィスビルが改修期を迎える安定した事業環境に加え、収益力強化の取り組みによる利益成長が期待できる銘柄。

<6845 アズビル 業績: 日本基準>

[ 今期予想の配当金は発行会社予想 ]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	254,810 (▲ 1)	20,145 ( 18)	20,475 ( 23)	13,153 ( 59)	179.6	記77.00
18.3	260,384 ( 2)	24,026 ( 19)	24,316 ( 19)	17,890 ( 36)	246.2	82.00
19.3 予	267,000 ( 3)	26,000 ( 8)	26,500 ( 9)	18,500 ( 3)	129.2	69.00

(注) 18年10月1日付で普通株式1株に付き2株の割合で株式分割を実施。19.3予の1株当たり配当金は第2四半期末の46円と期末の23円の単純合算値で表示



[ 主要株価指標 ] (売買単位 : 100株)	
株価 (2019/3/4)	2,524 円
昨年来高値 (高値日)	2,775 円 (18/5/15)
同 安値 (安値日)	1,949 円 (18/10/30)
予想 P E R (19.3 予)	19.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,214.2 円
P B R	2.08 倍
予想配当利回り	1.82 %
(株式分割後に換算した1株当たり配当金年46.00円)	
R O E (18.3)	10.5 %
発行済み株式数	14,850 万株